

パネル発表「品川区の動物愛護作文コンクール」

松永義治 古谷隆俊 飯田雅子

1 はじめに

東京都獣医師会品川支部は動物愛護事業の一環として品川区教育委員会と動物愛護作文コンクールを開催しています。今回の大会では表彰式の様子と26冊におよぶ作文集を展示してパネル発表を行いましたので、その内容について報告します。

2 経緯

動物愛護作文コンクールは、青少年健全育成と情操教育を目的に、獣医師会品川支部と東京荏原ライオンズクラブが品川区の教育会国語部の協力で作文集を作り表彰式を開催したのが始まりです。2年目からはライオンズクラブに変わって品川区教育委員会との共催となり現在まで25年間続いています。

開催に掛かる費用については、当初は獣医師会が負担していましたが、数年後には教育委員会において予算化され、表彰式会場の確保と文集・賞状の作成は教育委員会が、そして作文を応募してくれた児童たちへの賞品と記念品は獣医師会がそれぞれ負担しています。

3 作文の内容と審査

表彰されるのは区内40の小学校5・6年生から応募された動物愛護をテーマにした約160点の作文の中から優秀な作品40点(各学年、佳作10点・入選10点)を国語部の先生方と獣医師会の担当委員で厳密に選考したものです。

応募された作文の内容は、家庭で飼育されている犬や猫などの小動物と学校で飼育されているウサギやニワトリなどとのふれあいの様子を描いたものがほとんどです。最近では、自然保護・動物愛護について自分なりの考えを表現しているものも多くみられるようになりました。どの作文も文章力の差はあっても、動物を愛しむ優しさと動物とのかかわりをおして自分より弱いものをいたわる気持ちがよく伝わってくるものばかりです。

毎年、数点の入選作を東京動物保護管理協会(現東京家庭動物愛護協会)に応募して好成績を得ていました。

4 表彰式

年に一回、動物愛護週間の前後に行われる表彰式には、表彰される生徒のほかに保

護者や教師など100名を超える出席があります。まず、主催者である獣医師会品川支部長と教育長から挨拶があり、支部長から一人ひとりに賞状と賞品が手渡された後、5・6年生それぞれ一名の代表者が作文を朗読します。そして東京都獣医師会会長の祝辞に続き、最後に審査委員長(教育会国語部長)の講評をもって表彰式が終了します。以前は表彰式終了後、動物園の園長さんなどを招いて動物の話をしていただいたり、動物愛護の映画を上映していた時期もありましたが、時間の制約もあり現在は表彰式のみ行事となっています。

第20回の表彰式には品川区長が出席され祝辞をいただきました。その様子は品川ケーブルテレビで放映され、獣医師会と教育委員会が協力して開催する恒例の事業として区民にも広く周知されるようになりました。

5 おわりに

パネル発表では、作文集のほかに学校動物の飼育支援活動に従事する獣医師として品川区教育委員会から支部員全員に発行された認定書も展示しました。

今回の大会では品川区教育委員会の学務課長が、今年度あらたに獣医師会品川支部と締結した「品川区小中学校における学校飼育動物の飼育支援活動に関する協定」についての経緯と内容について口頭発表がありました。動物の飼育体験をおして情操教育に寄与する学校飼育動物が健全に飼育されるよう獣医師会として支援することが協定の第一の目的です。

この支援活動については10年以上前からその必要性が話し合われていましたが、獣医師会側の体制が整わずなかなか実行に至りませんでした。今年度から教育委員会と密な連携により何とか一歩踏み出すことができました。

獣医師会品川支部は動物愛護作文コンクールや学校動物飼育支援活動のほかにも災害時の動物救護についての協定も締結しており、行政との連携がさらに必要になってきています。これらの事業が今後も継続できるよう獣医師会内部の意思統一と教育委員会ははじめ行政との信頼関係をより大切にしてゆきたいと思っています。

(東京都獣医師会品川支部)